

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年2月29日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690102084
法人名	医療法人 徳洲会
事業所名	医療法人徳洲会グループホーム東谷山
所在地	鹿児島県鹿児島市東谷山二丁目49番10号 (電話) 099-260-8200
自己評価作成日	令和6年1月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和6年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・今年度より医療面において看護師が常駐しており、利用者様のその日の体調の変化や急変時に協力医療機関との速やかな連携が取れる事によって入居者様やご家族様の安心が更に得られる様になった。
- ・地域との関りを大切にし町内会への加入、慰問等を通じて外部の方々と交流し非日常での活動を味わう事で生き甲斐につなげている。
- ・日常生活においては、個々に合わせたケア又は残存機能を引き出し状態維持に努めている。
- ・月1回、お弁当を入居者の嗜好に添った内容で外注し、食の楽しみの一つとして機会を設けている。
- ・同法人内の老人保健施設が近隣にあり、スタッフの研修等を通じて知識の向上、質の高いケアサービスが出来る環境を整えている。

また、入退去時の相談も密に連携が取れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所はビルの2～3階にあり、近隣の公園に日常的に散歩に出かけたり、駐車場で外気浴をする等の気分転換を図っている。また、月1回の弁当の日を設け、楽しめるよう支援している。ホーム内で運動会を開催して、東谷山国体とネーミングし、パン食い競争や宝釣り・玉入れ等、楽しめるよう工夫している。
- ・協力医療機関が主治医となり、月2回の訪問診療と常駐の看護師による健康チェックを行い、24時間医療連携体制で適切な医療が受けられるように支援している。また、希望により訪問マッサージを受けている利用者もいる。
- ・コロナ感染5類移行後も感染対策を行い、専門学校の看護・介護の実習生を受け入れたり、認知症についての電話相談にも対応している。
- ・職員は利用者と一緒に時間を設け、特性を把握し、コミュニケーションを図ることで関係性を構築し、利用者の表情が明るくなったと家族は喜んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所のサービスの意義を全職員が理解し、地域密着型サービスの実現に努めている。	法人理念を基に、事業所理念を各フロアの食堂やエレベーターに掲示し、申し送りや会議時に唱和、確認して実践している。日々の場面や毎月の職員会議で振り返り、支援に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、感染症等を考慮しながらできる範囲内で行事等に参加し交流を深めている。	町内会に加入し、回覧板で情報を得て年2～3回、近隣公園の清掃活動に参加している。専門学校の看護・介護の実習生やクリスマス会ではボランティアの受け入れをしている。家族から旬野菜や果物の差し入れや散歩時の地域住民との挨拶交流をしている。地域の住民から電話で認知症についての相談があり対応している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	2ヵ月に一度の運営推進会を通じて事業所内での事例を交え理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議の構成メンバーと事例を話し合い問題点や取り組み方を取り入れサービス向上に努めている。</p>	<p>定期的に対面での会議を開催し入居者状況・ヒヤリハットや事故報告等の意見を活かし、事例を生活面から把握し、施設全体で話し合い対策を考え、サービス向上に活かしている。関連施設で情報を共有し、閲覧出来るよう開示している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>市町村担当や生活保護等の関係者には、日頃からサービスの取り組みや事例を伝え協力を得ている。</p>	<p>市担当者とは直接、窓口に出むき、報告やおむつ申請・不明点等を相談し助言を貰っている。生活保護課とは、訪問で利用者との面談があったり、電話等で情報を共有し、協力関係を築いている。市主催の研修はリモートや対面で参加し、職員に伝達している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>委員会と勉強会は、年間計画で決められた月に開催している。身体拘束をしないケアは実践している。</p>	<p>身体拘束適正化検討委員会を3ヶ月毎に開催し、勉強会や意見交換して確認している。虐待やスピーチロック・車椅子についても身体拘束をしないケアに努めている。センサー使用時、家族の了解を得て定期的に話し合い記録している。外に出たい場合、職員と一緒に公園等で散歩している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>定期的な委員会と勉強会を開催し虐待防止の理解に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護に関する勉強会や尊厳について定期的に話し合いの場を設けている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居時に契約書や重要事項説明書の読み合わせを行う。その他不明な点があるときは、その都度対応している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>いつでも運営に関する要望の受付は行っている。その他、契約書にも行政の苦情受付機関を記載してある。</p>	<p>利用者からは日々の関わりの中で意見や要望を聞いている。家族からは運営推進会議や面会時・電話等で状況説明し、遠方家族にはケアプランを郵送報告している。毎月、便りで写真を添えて担当者が生活状況や健康状態を一筆し、意見や要望等が言える機会を設けている。意見を反映させ職員のネーム作成依頼中である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>日々の業務の中や会議等で提案をしたり疑問の解決に繋がる機会を設けている。</p>	<p>管理者は毎月の職員会議や申し送り・日々の業務の中で、意見や提案を聞き、フロアリーダーにも直接声かける等、意見を言える環境を心がけている。必要時、個人面談し相談にも対応している。意見や提案を反映させスライディングボードの購入や希望休暇を取れる体制作りをしている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>やりがいのある職場環境の整備に務めながら職員の士気も高められるよう必要に応じて話し合いの場を設けている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定期的な外部研修に参加したり、苦手な分野を克服するために努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同グループ内での取り組みやサービスの質の向上に向けて意見交換等行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する前にアセスメントを取り、困っている事、不安な事、要望などを把握し本人の安心の為の関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階でご家族と十分に話し合い困っている事や要望に耳を傾け、問題解決と信頼構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する前にアセスメントをとり本人が必要とする支援を見極め、ご家族の納得の上で必要があれば他のサービス（訪問マッサージ、訪問カット、訪問診療、訪問歯科）などを開始する。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることを見極め一緒に洗濯物を畳んだり、モップを掛けたり、テーブルを拭いてもらったりとできる範囲内で暮らしを共にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族ができる事、外泊、外食、衣替え必要なものを買ってきてもらうなど、家族との絆も大切にしながら共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の方が病院受診に付き添ったり食事に行ったり、親戚、友人の面会などを歓迎している。	面会は事前の連絡で調整し、対面や持参の携帯電話で自由に会話している。電話や手紙・年賀状の支援や荷物の受け取り後の連絡で関係継続の支援に努めている。家族の協力で受診や馴染みの美容室に出かけたり、2ヶ月毎の訪問理美容で整髪支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションの時間は、スタッフが入り利用者同士が関わり合えるように工夫をしている。また、入居者同士の人間関係に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても要望に応じて家族の相談に応じ支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中で一人一人の思いを受け止め実践している。 (コーヒーが飲みたい、買い物に行きたい等)衣類や下着が不足しているときは本人の好みを聞いたりしながら購入している。	日々の会話の中で、特に夜間帯や入浴時に思いや意向を話されることが多い。意思疎通が困難な場合は表情や首を振る動作・ジェスチャー等から、家族や入所前の情報・生活歴を基に職員間で意見交換し、本人中心に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前アセスメントを取り、サービス開始時には、生活歴やなじみのくらしや生活環境を把握して取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方は心身の状態を有するなどを把握し本人の出来る事、楽しめる事を取り入れている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画はご家族や主治医の意見、その他関わっている方々、本人の心身の状態などを考慮し作成している。	本人や家族・主治医・訪問看護師・職員の意見を基に担当者会議で意見交換し、心身状態や趣味等を反映させ現状に即した介護計画を作成している。モニタリングは新規の場合は1ヶ月、3ヶ月毎に実施し、6ヶ月で見直している。状況変化時はその都度見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の個別の記録を点検し気づきをその都度話し合い、介護計画に活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>平八で家族の状況、ていつ々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>ご家族に代わり必要な物を買に行ったり訪問マッサージ、訪問カット、訪問歯科などに取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>近所の美容院、民生委員、病院等の支援を得ながら安全で豊かな支援をしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>家族の了解を得て、大半の方々が24時間体制の訪問診療で何でも相談できるようになっている。また本人が希望する主治医との関係も築いている。</p>	<p>家族の了解を得て、協力医療機関が主治医となり月2回の訪問診療と常駐看護師による日々の健康管理をしている。必要時は歯科医の訪問診療もあり24時間医療連携体制で適切な医療が受けられるよう支援している。専門外来受診は基本は家族であるが職員同伴の場合もある。電話やホーム便りでも報告している。希望で訪問マッサージを受ける場合もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問診療のDrに利用者様について気になることは全て相談しながら行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院されたときは病院関係者と情報交換しながら今後のことについて相談し話し合いをしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時説明で重度化した時や終末期の事について説明を行いご家族の希望もお聞きしホーム内で出来る範囲を説明し方針を共有している。</p>	<p>入居契約時、マニュアルに基づいて説明し、事前調査書のチェックもあり、同意書を貰っている。重度化した場合や終末期には主治医から家族に状態の説明があり、家族の意思確認をしながら方針を共有し、看取り支援は感染対策を徹底しチームで支援しグリーフケアにも取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>ホーム内の勉強会や消防救命講習等を通じて実践力を身に付けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地域の消防隊と連携して防災訓練を行っている。また民生委員の方や町内会長とも話し合い避難所の確認や非常食を用意している。防災計画と連絡先など職員全員に配っている。</p>	<p>年2回防災訓練を昼夜間想定で消防署の指導のもと、設備点検業者も参加し、通報・避難誘導訓練・消火訓練等、総合訓練を実施し総評を得ている。避難経路は各フロアに掲示している。自主訓練も避難誘導訓練、消火器の位置等を確認している。消防設備は業者依頼で点検している。備蓄は缶詰・水・味噌汁・乾パン・レトルト食品・菓子等を7日分とカセットコンロ、各フロアにランタンを準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>各自の尊厳、プライバシーの確保受容共感をスタッフは学んでおりそのように対応している。</p>	<p>人権や接遇マナー・プライバシー確保等、その都度話し合い意見交換して研鑽している。排泄や入浴時は羞恥心に配慮し、個別に声掛けの工夫をしたりドアの開閉に留意した対応をしている。入室時はノックし苗字で声かけし、洋服など提示し選べる環境を作っている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>声掛け、傾聴により本人の思い気持ちを伝える機会を作っている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>個人のペースに合わせた生活をしていただくように声掛けをし気持ちの把握に努める。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>定期的に訪問カットをお願いし、入浴前の髭剃りなど声掛けを行い清潔な身だしなみを支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめるよう一日の献立をホワイトボードに記入し利用者が見える位置に配置し毎月1回お弁当の日を設けている。	味噌汁と主食はホームで準備し、主菜は外注委託している。食形態は普通食からとろみ食迄を個々に応じて提供している。季節の行事食や誕生日は希望を聞き、おでん等のリクエストがあり、ケーキや和菓子と好きな飲み物で祝っている。月1回弁当の日を設け楽しめるよう工夫している。下膳等を一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後の食事量と水分摂取量を記録、10時入浴後15時の水分補給、水分確保に努めている。栄養バランスは確保されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後その人に応じた口腔ケアを行っている。またケースに応じて訪問歯科の支援も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の自立に向け個人のパターンを把握しトイレ誘導、自立を支援している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、音量や羞恥心に配慮した声掛けでトイレでの排泄支援をしている。排泄用品はリハビリパンツに尿取りパットを使用している。夜間、ポータブルトイレの活用もある。尿取りパットのサイズが声かけで、大から小に変化した事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかりとっていただき運動や食生活等に気を付けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日の予定は事前にたててあるが、ご本人様の意思や体調に応じて対応している。着脱洗身等は残存能力を活かしながら支援を行っている。	冬期の2月迄は週2回で3月からは週3回の入浴で浴槽やシャワー浴と足浴のセットで支援している。個々人の状況で順番や湯温を調整し、入浴剤を使い楽しめるようにしている。保湿クリームも使っている。入浴拒否がある場合、時間や日にちをずらし支援している。体調が悪い場合、全身清拭で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動にメリハリをつけてスムーズな入眠を促すよう支援している。居室でリラックスできる環境整備に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往症と薬情の把握をし対応している。毎朝のバイタル測定で体調悪化の確認を行い、事変時は早急に主治医に状況報告を行い指示を仰いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の興味を引き出し、活躍の場を設けている。日々の活動内容も利用者様主体での支援を心がけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	気分転換や生きがいを感じられるよう安全面を確保し最大限に希望に沿った支援を実践している。	年間行事計画を作成している。日常的には近隣公園の散歩や敷地内の駐車場での外気浴をしたり、花見やふるさと考古歴史館へのドライブ支援をしている。家族の協力で他科受診や馴染みの美容室へ出かけている。ホーム内では運動会を開催し、「東谷山国体」とネーミングし、パン食競争・宝釣り・玉入れ等を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の力に応じて自己管理可能な方は少額を所持して頂き、物盗られ妄想等ある方はホームにて管理またはご家族様で管理、買い物に使用。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	年賀状やグループホーム便りや個別に近況報告を行い、また会話可能な方は電話でのやり取りができるよう支援。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は自由に過ごせ、不安な音や光、冷暖房の風を直接受けけない配慮をし、生活感、季節感を感じられるよう観葉植物や装飾を施し心地よく過ごせるよう工夫している。	リビングにはオゾン発生器が有り、定期的に換気を行い、採光はカーテンで調整し、温湿度計を見ながら、エアコンで過ごしやすい環境を作っている。観葉植物や花を飾り、壁には季節毎に利用者と作成した壁画を飾り、折り紙の作品も置いている。テーブルや椅子・テレビ・ソファを設置し、メダカを飼育し、餌をやったり、自由に過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に応じた椅子を準備し、テレビ視聴や他利用者と会話やレクリエーションをされ自由に楽しく過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に自ら色塗りされたカレンダー、ご家族との写真やなじみのものを持ち込まれ安心して過ごせる環境づくりを実施している。	居室は電動ベッド・タンス・エアコンを設置している。寝具類は持ち込みで、仏壇や遺影・テレビ・時計・家族写真・孫の手紙・レース編み物・自作のカレンダーが掛けられ、安心して過ごせるような環境作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体状況に合わせ手すりの設置や環境整備に努めている。危険と思われるものは布で覆うなど混乱を回避し1人ひとりに合った動線も考え家具やベッドの配置、トラブルにならないよう座席の配置なども工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない